

## 三河の昆虫

No. 44

1997年2月

〒444-35

岡崎市舞木町狐山6-4

大平仁夫方

三河昆虫研究会 発行

MIKAWA NO KONTYU

Published by

The Mikawa Insects Association

## 段戸山の軟鞘類(1)

桐山 功

段戸山は愛知県における好採集地として、さまざまな昆虫が記録されており、軟鞘類についても佐藤(1990)がベニボタル科18種、ホタル科4種、ホタルモドキ科1種、ジョウカイボン科8種を記録しており、大平・長谷川など(1996)もベニボタル科12種、ジョウカイボン科16種、ホタルモドキ科2種、ホタル科7種、ジョウカイモドキ科1種を記録している。筆者も今まで段戸山において4回の採集を行い、多数の標本を得たが、今回はその中で、特にNakane & Makino (1989/1990)とTakahashi (1992)によって記載されたクビボソジョウカイ属*macilentus*群の新種に注目して、この報告をまとめてみた。*Podabrus*属のこのグループはまだ未記載種も多く、引続き採集を続け、種を確認できたとき、さらに報告する予定である。

なお、この報告をまとめるに当たっていろいろなお教示を頂いた神奈川県の高橋和弘氏に厚くお礼申し上げる。

## ホタル科

1. *Lucidina biplagiata* (Motschulsky, 1866)

オバボタル

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1♂

どこでも森林内なら少しずつ採集されるが、段戸山でも穂積(1969b)と大平・長谷川など(1996)が裏谷から記録している。

## ベニボタル科

1. *Macrolycus submontanus* Nakane, 1994

(写真A)

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1♂1♀

本種は、Nakane (1994)が*M. montanus* Nakane, 1967を分割して、和歌山県、三重県、長野県、静岡県、山梨県などの標本をもとに新種として記載したものである。前胸背板や♂交尾器の構造をよく調べてみたら、桐山(1993)が*M. montanus*として岐阜県から報告していたのもこの種に含まれることになる。穂積(1971)が*M. montanus*として段戸山から記録した標本も*M. submontanus*の可能性があるので、再確認する必要がある。

2. *Lyponia quadricollis* Kiesenwetter, 1874

カクムネベニボタル

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1♂

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1♂1♀

段戸山からは、穂積(1973)が裏谷から、大平・長谷川など(1996)が駒ヶ原と裏谷から記録している。

3. *Platycis nastus* (Kiesenwetter, 1874)

テングベニボタル

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 1♂

段戸山からは、佐藤(1990)が裏谷から、大平・長谷川など(1996)が裏谷と西川から記録している。

4. *Conderis rufohumeralis* Nakane, 1958

カタアカベニボタル

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1♂

段戸山からは、穂積(1973)が裏谷から記録している。これまで本種は、岐阜県でも裏谷と同様

にブナ原生林から多く採集されているので、生息環境がそのような暗い広葉樹林と関係があるかも知れない。

### ジョウカイボン科

#### 1. *Athemus (Athemus) suturellus suturellus* (Motshulsky, 1860)

ジョウカイボン

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1 ♀

普通種であり、段戸山からは大平・長谷川など(1996)が駒ヶ原などから記録している。

#### 2. *Athemus (Athemus) aegrotus* (Kiesenwetter, 1874)

クロホンジョウカイ

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1 ♂

本種は本州などの各地で採集でき、段戸山からは佐藤(1990)と大平・長谷川など(1996)が裏谷から記録している。

#### 3. *Athemus (Athemus) maculieytris* Ishida, 1986

フチヘリジョウカイ (写真B)

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1 ♀

本種は、Ishida (1986) によって本州(東海地方の静岡、三重両県を含む5県)、四国、九州各地の標本によって新種記載されたものである。今までの段戸山からの記録はなく、愛知県では大平・長谷川など(1996)が設楽町神田田代から記録しているだけである。岐阜県では比較的普通で、山地でしばしば採集されている。

#### 4. *Athemus (Andrathemus) nakanei* (Wittmer, 1953)

ミヤマクビアカジョウカイ (写真C)

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 1 ♂

本種は、岐阜県の山地でもよく採集されるが、愛知県からはIshida (1986) が猿投山から記録した外は、段戸山から大平・長谷川など(1996)が裏谷から記録しているだけである。今回採集された個体は前肢の外爪の基部に小歯をもち、上翅の斑紋は縦縞状であるが、♂交尾器はNakane (1992) の述べている亜種*nakanei* Wittmerの形態をなしていた。

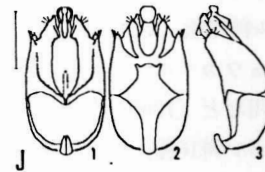
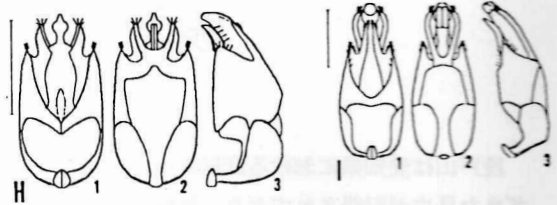
#### 5. *Athemus (Andrathemus) vittelinus* (Kiesenwetter, 1874)

セボンジョウカイ

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1 ♀

段戸山、駒ヶ原、3. VII. 1996, 1 ♂

本種は、本州以南の各地で少しずつ採集されており、段戸山からは佐藤(1990)が黒田ダムから、大平・長谷川など(1996)が裏谷から記録している。



#### 6. *Mikadocantharis japonica* (Kiesenwetter, 1874)

ヒメジョウカイ

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 1 ♂ 1 ♀

普通種であるが、段戸山付近からの記録は佐藤(1990)による茶白山と面ノ木峠のものしかない。

#### 7. *Podabrus heydeni* Kiesenwetter, 1879

クビボンジョウカイ

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 1 ♂

本種も普通種であり、段戸山からは大平・長谷川など(1996)が駒ヶ原、段戸山、西川林道などから記録している。

#### 8. *Podabrus yushinensis* Takahashi, 1992

ユーシンクビボンジョウカイ (写真D)

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1♂5♀♀

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 2♂♂1♀

本種は、Takahashi (1992) により神奈川県  
の標本をもとに記載されたものであるが、神奈川県  
と同様に太平洋に面した山地である段戸山にも産  
することがわかった。*Macilentus* 群としては小  
形の種で、本種を記載された高橋和弘氏からの私  
信によれば、富士川より西側で採集される個体は  
体色がやや淡くなり、♂交尾器(図H)のventral  
processの幅がやや幅広くなるとのことで、段戸  
山で今回採集された個体は、まさにその通りであ  
り、その他の部分はよく原記載に適合する。

9. *Podabrus kansaiensis* Nakane et Makino,  
1990 (写真F)

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 5♂♂

段戸山、裏谷、3. VII. 1996, 1♂3♀♀

広島県、京都府、滋賀県、三重県などの標本に  
よって記載された種であるが、次種を含めて近似  
種が多く、頭部や前胸背板、♂交尾器(図I)の  
構造によって識別しなければならない。岐阜県で  
は各地の山地で採集されているが、今回段戸山で  
採集された個体は、いずれも黒化が進み、前胸背  
板の2本の縦の黒斑はつながっていて、上翅も全  
体が黒褐色となっている。

10. *Podabrus syozoi palustris* Nakane et  
Makino, 1989 (写真E)

段戸山、井戸沢、27. V. 1996, 5♂♂4♀♀、  
24. VI. 1996, 2♂♂

尾瀬と上高地を原産地として記載された種で、  
前種と近似しているが、頭部や前胸背板の構造の  
ほか、♂交尾器(図J)のventral processの先  
端が斧状をなしていることなどによって識別でき  
る。本種は美濃地方の山地でも、各地で少しずつ  
採集されている。

11. *Prothemus reinii* (Kiesenwetter, 1879)

ヒガシマルムネジョウカイ

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1♂1♀

段戸山、井戸沢、24. VI. 1996, 1♀

従来、*P. ciusianus*として記録されてきた種  
であるが、Takahashi (1992) によって九州産の  
ものと分割され、さらにNakane (1993) によっ

て*P. reinii*が復活した。

穂積(1969)が、*P. ciusianus*として裏谷から、  
大平・長谷川など(1996)が*P. enokidoi*として  
駒ヶ原、裏谷から記録しているが、多分*P. reinii*  
のことであろう。岐阜県では北部へ行くほど上翅  
全体が黒化する傾向があり、反対に南部の養老山  
脈や恵那山のものは上翅全体が黄褐色となるもの  
もあった。段戸山での個体は上翅が縦縞状の斑紋  
となっていた。

12. *Tryptherus nigrinus* Brancucci, 1989

クロコバネジョウカイ(写真G)

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 4♂♂2♀♀

愛知県からの初記録である。本種を除いた  
*Tryptherus*属などのコバネジョウカイ類はまだ愛  
知県からは記録されていない。

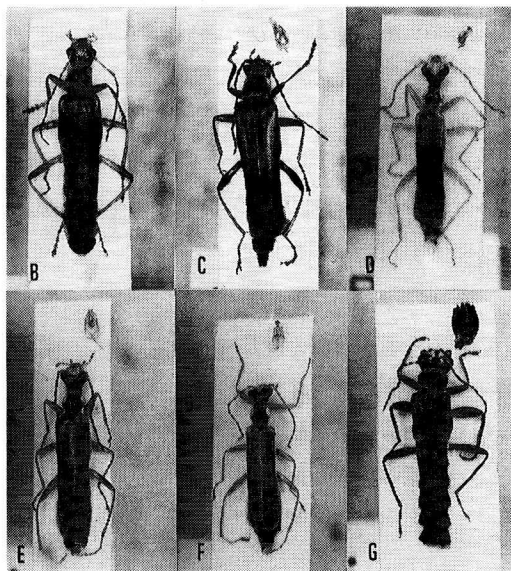
#### ジョウカイモドキ科

1. *Malachius prolongatus* Motschulsky,  
1866

ツマキアオジョウカイモドキ

段戸山、胡麻沢林道、24. VI. 1996, 1♀

普通種であり、段戸山からは大平・長谷川など  
(1996)が裏谷から記録している。



#### 引用文献

1. 桐山功(1993) 岐阜県のベニボタル科甲虫,

- 啓蟄, . 10(29) : 20-24.
2. 桐山功 (1995) 岐阜県産ジョウカイボン科甲虫の記録(1), 啓蟄, . 13(35) : 1-10.
3. Nakane, T. & Makino, T. (1989) A revision of the genus *Podabrus* WESTWOOD in Japan (II). Rev. Miyazaki Sangyo-keisei Univ. 1(2) : 1-18
4. Nakane, T. & Makino, T. (1990) A revision of the genus *Podabrus* Westwood in Japan (III). Fragm. Coleopt. 45/48 : 183-197.
3. Nakane, T. (1992) Notes on some little known beetles (Col.) in Japan 9; Kitakyushu no Konchu, 39(2) : 77-79.
3. Nakane, T. (1993) Notes on some little known beetles (Col.) in Japan 11; Kitakyushu no Konchu, 40(20) : 155-162.
4. Nakane, T. (1994) Revision notes on the species the *Macrolycus* Wathrhouse in Japan; Trans. Nagasaki Biol. Soc., (44) : 3-9.
5. 大平仁夫・長谷川道明・蟹江昇・河路掛吾・松野更一・山崎隆弘 (1996) 甲虫類、設楽町誌、自然編、資料 : 449-551
6. 佐藤正孝 (1990) 愛知県の甲虫 (I)、愛知県の昆虫 : 204-231
7. Takahashi (1992) The fauna of Cantharidae in Kanagawa Prefecture, Japan; Kanagawa chuhou, (100) : 71-124
- 図版・写真説明
- 図H. *Podabrus yushinensis* Takahashi ユーシクビボソジョウカイの♂交尾器
- 図I. *Podabrus kansaiensis* Nakane et Makino の♂交尾器
- 図J. *Podabrus syozoi palustris* Nakane et Makino の♂交尾器  
1 : 腹面 2 : 背面 3 : 側面  
(スケールは0.5mm)
- 写真A. *Macrolycus submontanus* Nakane
- 写真B. *Athemus (Athemus) maculiellytris* Ishida フチヘリジョウカイ
- 写真C. *Athemus (Andrathemus) nakanei* Wittmer ミヤマクビアカジョウカイ
- 写真D. *Podabrus yushinensis* Takahashi ユーシクビボソジョウカイ
- 写真E. *Podabrus syozoi palustris* Nakane et Makino
- 写真F. *Podabrus kansaiensis* Nakane et Makino
- 写真G. *Tryptherus nigrinus* Brancicci クロコバネジョウカイ

## 神島の昆虫 (主として中西元男氏採集)

浅岡孝知

神島の昆虫については、過去に丹信実 (1960) が86種、大平仁夫 (1972), 同 (1973) にまとめられている。筆者は三河の野性動物 (1991) で最近の様子を報告している。ここでは、三重昆虫談話会の中西元男氏が採集された昆虫類とその後筆者が訪ねた時の追加種について報告する。まだ一部の試料は未同定である。こころよくご恵与された同氏に対しお礼を申し上げる。

### 目録

中西元男氏が採集された昆虫 I (データ2-X-1994)

オサムシ科 Carabidae

1. クロゴモクムシ 1 ex.

*Harpalus niigatanus* Schauberger, 1929

エンマムシ科 Histeridae

2. エンマムシ 1 ex.

*Merohister jekeli* (Marseul, 1857)

- ハネカクシ科 Staphylinidae (Waterhouse, 1875)
3. ウミベアカハネカクシ 1 ex.  
*Phucobius simulator* Bernhauer, 1931
- コメツキムシ科 Elateridae
4. ハマベオオヒメサビキコリ 2 exs.  
*Agrypnus tsukamotoi* (Kishii, 1956)
- ケシキスイ科 Nitidulidae
5. クロモンカクケシキスイ 3 exs.  
*Pocadius nobilis* Reitter, 1873
- ゴミムシダマシ科 Tenebrionidae
6. コスナゴミムシダマシ 1 ex.  
*Gonocephalum coriaceum* Motschulsky, 1857
- ハムシ科 Chrysomelidae
7. クロウリハムシ 1 ex.  
*Aulacophora nigripennis* Motschulsky, 1857
- ゾウムシ科 Curculionidae
8. トビイロヒョウタンゾウムシ 1 ex.  
*Scepticus uniformis* Kono, 1930
- 中西元男氏が採集された昆虫II(データ10-X-1995)
- ドロバチ科 Eumenidae
1. オオフタオビドロバチ 1 ex.  
*Anterhynchium flavomarginatum micado* (Kirsch, 1873)
- スズメバチ科 Vespidae
2. コガタスズメバチ 1 ♂  
*Vespa analis insularis* Dalla Torre, 1894
- 中西元男氏が採集された昆虫III(データ10-X-1996)
- オサムシ科 Carabidae
1. クロゴモクムシ 2 exs.  
*Harpalus niigatanus* Schaubberger, 1929
2. ケゴモクムシ 1 ex.  
*Harpalus vicarius* Harold, 1878
- コガネムシ科 Scarabaeidae
3. ヒラタハナムグリ 2 exs.  
*Nipponovalgus angusticollis angusticollis* (Waterhouse, 1875)
4. コアオハナムグリ 2 exs.  
*Oxycetonia jucunda* (Faldermann, 1835)
- コメツキムシ科 Elateridae
5. ハマベオオヒメサビキコリ 5 exs.  
*Agrypnus tsukamotoi* (Kishii, 1956)
- オオキノコムシ科 Erotylidae
6. カタモンオオキノコ 1 ex.  
*Aulacochilus japonicus* Crotch, 1873
7. コスナゴミムシダマシ 4 exs.  
*Gonocephalum coriaceum* Motschulsky, 1857
- カミキリムシ科 Cerambycidae
8. クロカミキリ 1 ex.  
*Spondylis buprestoides* Linnaeus, 1758
- ハムシ科 Chrysomelidae
9. ヨモギハムシ 1 ex.  
*Chrysolina aurichalcea* (Mannerheim, 1825)
- サンガメ科 Reduviidae
10. ビロウドサンガメ 2 exs.  
*Ectrychotes andreae* (Thunberg, 1784)
11. アカシマサンガメ 2 exs.  
*Haematoloecha nigrorufa* (Stal, 1866)
- ナガカメムシ科 Lygaeidae
12. ヒメナガカメムシ 2 exs.  
*Nysius plebejus* Distant, 1883
13. オオモンシロナガカメムシ 2 exs. ニソフ  
*Metochus abbreviatus* (Scott, 1874)
- マルカメムシ科
14. マルカメムシ 1 ex.  
*Megacopta punctatissima* (Montandon, 1894)
- カメムシ科 Pentatomidae
15. アカスジカメムシ 1 ex.  
*Graphosoma rubrolineatum* (Westwood, 1873)
- 筆者追加種(データ7-VIII-1991)
- オサムシ科 Carabidae
1. オオヨツアナアキアトキリゴミムシ 1 ex.

*Parena perforata* (Bates, 1873)

カミキリムシ科 Cerambycidae

2. ヨツスジトラカミキリ 1 ex.

*Leptira ochraceofasciata ochraceofasciata*

Motschulsky, 1861

セミ科 Cicadidae

3. クマゼミ 1 ♂

*Cryptotympana facialis* (Walker, 1858)

4. ミンミンゼミ 1 ♂ 1 ♀

*Oncotympana maculaticollis* (Motschulsky,

1866)

過去には見いだされていなかった。

アオバハゴロモ科 Flatidae

5. アオバハゴロモ 1 ex.

*Geisha distinctissima* (Walker, 1858)

ハゴロモ科 Ricaniidae

6. ベッコウハゴロモ 1 ex.

*Orosanga japonicus* (Melichar, 1898)

オオホシカメムシ科 Largidae

7. ヒメホシカメムシ 1 ex.

*Physopelta cincticollis* Stal, 1863

神島の半翅類は、新たに5科9種が加えられ、これで13科24種となる。今後も継続的に調査をしていきたいと思う。また、三重県の他の島の昆虫

についても中西元男氏より資料のご恵与をいただいているので、順次報告していきたいと思う。

筆者の知る限りでは、これまでに下記のような文献が見られるが、半翅類を除いて、ここでは引用し目録としてまとめていない。まだ渡島毎に出現種が増えているので、これから構成種が漸次明らかになってくるものと思われる。したがって、これからまとめるに当たっては下記の文献を参考にされたい。

#### 参考文献

丹信実ほか(1960)日本列島周辺の小島嶼の生物学的研究 第2報 1-126 (平安学園教育研究会).  
大平仁夫(1972)三重県神島のコメツキムシ 佳香蝶24(91):36 (名古屋昆虫同好会).  
大平仁夫(1973)神島の昆虫類伊良湖 No 3 18-19 (伊良湖自然科学博物館).  
大平仁夫(1991)三重県神島のコメツキムシ2種の記録三河の昆虫(38):328 (三河昆虫研究会).  
浅岡孝知(1991)神島の昆虫三河の野性動物(1):16-19 (三河野性動物研究会)..

## 「セミの抜け殻調査」報告

宮原英明

はじめに

1993年の夏は長雨が続き、日照不足で冷夏となった。翌年の夏は、前年とは反対に水不足で高温の日が続き、マスコミは「異常気象」と報じるほどであった。この2年間は、異変とも思える気象状況のせい、セミの発生数は少なく、その鳴き声も例年になく少なかった。

1995年の夏は前年や前々年のような「異常」はなく、ごくふつうの夏で、セミの鳴き声は各所で聞こえた。当時小学校6年生だった娘の夏休みの研究につきあった「セミの抜け殻調査」の結果報

告をする。

#### 調査内容

- ① セミが脱皮し成虫になるとき、どのような樹木をよく利用するか、樹木の種類ごとの周りがあるセミの穴をおカウントする。
- ② セミが脱皮し成虫になるとき、どのような樹木をよく利用するか、樹木の種類ごとに付いたセミの抜け殻をカウントする。
- ③ 1日に成虫になるセミの個体数を知るために抜け殻をカウントする。



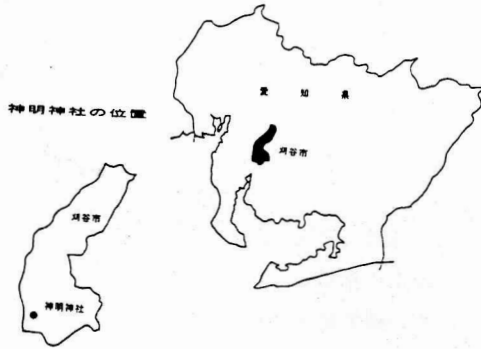


図1 神明神社の位置

調査場所

調査場所は刈谷市南部の小垣江町にある神明神社境内である。神明神社は碧海台地の南西端に位置し(図1参照), 周りは住宅や工場があり, 西側には県道名古屋碧南線R-50が走っている。

境内にはタブやクロガネモチ, クス, ケヤキなどがあり, 夏になるとフクロウ類のアオバズクが樹齢の古いクロガネモチの樹洞に営巣するほど, 比較的豊かな社寺林を形成している。

調査方法

調査期間は, 1995年8月12日~16日と20日の6日間である。

- ① 小垣江町神明神社境内の8種類の樹木(ツバキ, スギ, サクラ, マツ, タブ, ケヤキ, クス, クロガネモチ)をそれぞれ1本ずつ選び, その根元から半径2mの円を描き, その円の中にあるセミの穴を樹木の種別ごとにカウントする。(図2・3参照)

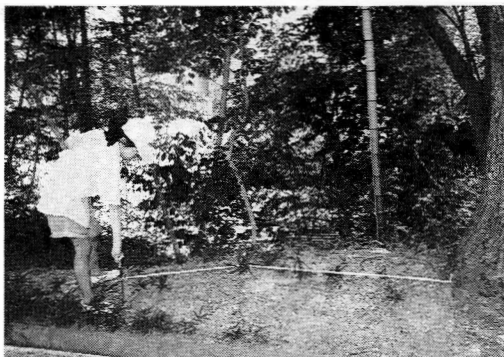


図2 樹木の根元に半径2mの円を描く

- ② 8種類の樹木の幹や枝や葉などについているセミの抜け殻を毎日全部採集して, セミの種類ごとに抜け殻をカウントする。
- ③ 1日に何個体のセミが成虫になるか, セミの抜け殻をカウントする。そのために1日ごとに抜け殻は全部採集する。(図4参照)



図3 セミの出た穴



図4 セミの抜け殻の採集

調査結果と考察

①樹木別のセミの穴の数

8月12日に樹木の種類別に根元から半径2m以内にある穴をカウントしたが, その2mという長さの科学的根拠はない。根元から1.5m以内の所に穴は集中してあったが, 中には5m以上離れた所にも穴は確かめられた。カウントした結果は表1のとおりであった。

樹木名	穴の数	抜け殻数
クロガネモチ	155	62
クス	144	70
ツバキ	132	43
マツ	115	48
タブ	76	81
スギ	65	29
ケヤキ	49	19
サクラ	25	12
合計	761	364

表1 (抜け殻数は8/14~8/20)

クロガネモチが最も多く155個で、次にクスが144個、その次がツバキで132個である。逆に、最も少ないのはサクラ、次にケヤキ、スギの順である。(図5参照)

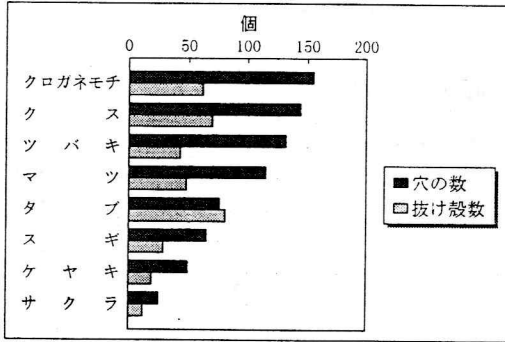


図5 樹木別セミの穴の数と抜け殻数

選んだ境内の樹木8本だけでセミの穴が761個あり、神社全体ではその10倍以上になると考えられる。

②樹木別のセミの抜け殻数

8月13日に調査対象の樹木に付いたセミの抜け殻すべてを取り除き、14日~20日までの4日間でどれだけの数の抜け殻がそれぞれの樹木に付いているかを調べた。その結果は表1に示すとおりで、タブが最も多く81個、2番目にクス、次にクロガネモチの順であった。逆に最も少ないのはサクラで12個、次にケヤキ、スギの順であった。8本全部で364個あったが、これも神社全体ではその10倍以上あると思われる。

セミの抜け殻は葉の裏が一番多く、その次は枝、幹の順で、葉の表はほとんど付いていなかった。また、一番高いところにあった抜け殻はクロガネモチの6.5mであった。



図6 スギの葉に付いた抜け殻

タブをのぞいて樹木別のセミの抜け殻数の結果は、樹木別のセミの穴の数の結果とほぼ同じような傾向があり、落葉樹よりも照葉樹に穴や抜け殻は多いことが分かる。

③1日に成虫になるセミの数

時期的に、アブラゼミとクマゼミの抜け殻だけしか確認できなかったが、1日に何個体のセミが成虫になるか、抜け殻の数をカウントしたが、その結果は表2のとおりであり、その推移を図7に示した。

1日で成虫になるセミの数は、8月12日から15日まで減り続け16日は増えて、20日はまた減っている。20日は8月17日~20日までの4日間全部の抜け殻の数を含めているので、平均して1日あたり12個になり、8月20日は一番少ないことになる。

このことから、この年のアブラゼミとクマゼミの成虫になるピークは8月10日頃と考えられる。

アブラゼミの抜け殻の総数はクマゼミの7.5倍で、アブラゼミとクマゼミの差が一番大きいのがタブで、小さいのがサクラであった。

アブラゼミの抜け殻が最も多いのはタブで、以下クス、クロガネモチが続く。逆に最も少ないのはサクラで、次にケヤキ、スギの順であった。

クマゼミの抜け殻の最も多いのはクロガネモチで、次がクス、ツバキで、少ないのはケヤキ、サクラ、タブであった。ケヤキにはクマゼミの抜け殻が1個もなかった。

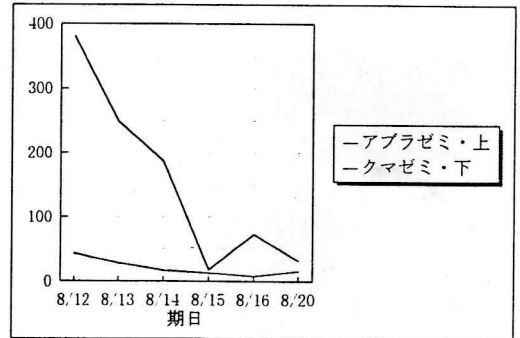


図7 セミの種類別抜け殻数の推移



日 セミ	1日目	2日目	3日目	4日目	5日目	6日目	合計
	8/12土	8/13日	8/14月	8/15火	8/16水	8/20日	
アブラゼミ	381	249	187	18	73	32	940
クマゼミ	43	28	17	13	8	16	125
合計	424	277	204	31	81	48	1065

表2 セミの種類別抜け殻数の推移

おわりに

短期間に一つの場所での調査であったので、結論を出すのは差し控えたい。しかし、全県的にこのような調査を行えば、樹木とセミの穴や抜け殻の相関関係がとらえられ、セミが脱皮を「好む」樹木が分かると思う。今後、会員諸氏で長期的にこのような調査をしてみても如何であろうか。

脱皮途中で力つきそのまま死んでしまった個体や真菌が付着しセミタケとなった冬虫夏草もいくつか見られ、自然の“厳しき”を感じることもできた調査であった。

参考文献

- ・宮原望 (1995) セミのぬけがら調べ, 第39回児童生徒理科研究発表要録, 刈谷市教委; 21~22P
- ・宮武頼夫 (1992) 検索入門セミ・バッタ, 保育社; 7~45P
- ・林弥栄 (1985) 日本の樹木, 山と溪谷社; 752PP
- ・盛口満 (1996) 冬虫夏草を探しに行こう, 日経サイエンス社; 174PP

## スナサビキコリの愛知県の記録 (コメツキムシ科)

大平仁夫

スナサビキコリ *Meristhus (Sulcimerus) nipponensis* Lewisは, G. Lewisが1881年9月に新潟で数頭の成虫を採集し, 1894年に新種として記載した体長4~5mm内外の黒褐色をした種である。

原記載では, 本種は海辺近くの砂丘などに生息していることが記されている。原記載以降, 本種は北は青森県から南は九州に至る各地で見出されており, 離島では五島列島や平戸島などからも知られている。馬場 (1981) による新潟県での観察では, 成虫は5月上旬頃から7月下旬頃にかけて発生し, 砂丘適応性であるが燈火にも集まると述べている。また, 黒田 (1995) は, 徳島県で黒砂糖+カルピス+氷酢酸の混合液に本種が多く入ったことを報告しており, 大塚 (1996) は熊本県で鶏肉トラップに入ったことを記録している。

筆者は会員で岡崎市在住の城殿浩氏から, 豊橋

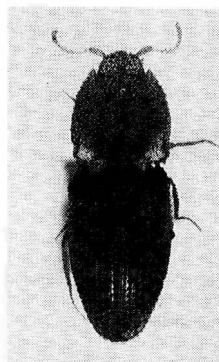


図1 スナサビキコリの成虫

市細谷の海浜で得られた1個体 (図1) を送っていただいたので, この機会に愛知県での分布記録などについて若干の説明をすることにした。ここに標本を送って頂いた城殿氏に心から御礼を申し上げる。

愛知県での分布の概要

愛知県に今まで知られている分布は図示 (図2) したようである。これらの記録は以下の報告の中に残されている。

1. 大平仁夫 (1952) *Meristhus nipponensis* Lewis 愛知県下で採集。幼虫, (4・5): 11. 種名の *nipponensis* は *nipponensis* の誤記。碧南

市郊外の電燈に飛来したことが記されている。

2. 大平仁夫 (1954) スナサビキコリの生態。

中部昆虫同好会報, (5・6) : 21.

渥美半島の海岸砂浜で1953年5月10日と1954年6月12日に採集。碧南市の燈火で1952年6月28日に採集。岡崎市愛知学芸大学農場の燈火で1953年7月に採集。碧南市の記録は大平 (1952) の個体と思われる。

3. 神谷一男 (1956) 南知多・渥美・蒲郡地方に産する昆虫類・自然公園三河湾 : 50~61. (愛知県)

伊良湖に産するとしているが、データはない。大平 (1954) の記録引用と思われる。

4. 大平仁夫・浅岡孝知 (1976) 愛知県のコムツキムシ (北設山岳地帯を中心にして) . 茶臼山高原道路建設予定地域の自然環境調査報告書 : 141~153.

渥美 (越戸), 碧南, 本宮山が産地としてあげられている。データは付されていない。

5. 大平仁夫 (1979) 伊良湖岬周辺の昆虫類。伊良湖, (11) : 12~13.

成虫の図は付されているが、データはない。

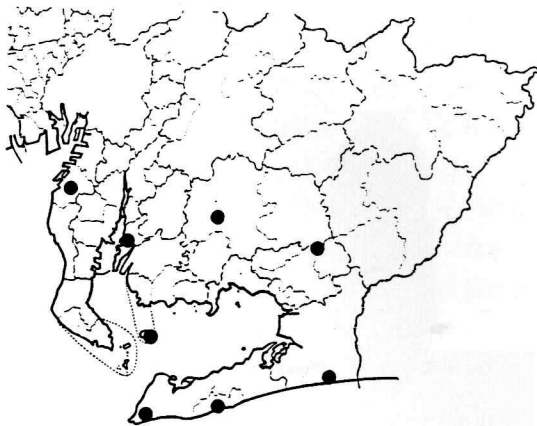


図2 愛知県におけるスナサビキコリの分布

6. 大平仁夫 (1982) 愛知県のコムツキムシ。

昆虫と自然, 17 (12) : 14~15.

渥美半島の海岸線に分布しているとしているが、データは付されていない。

7. 大平仁夫 (1985) 岡崎市の甲虫類, 新岡崎市史-自然14-:1024~1096.

明大寺で1953年7月の記録があるが、大平

(1954) の記録の引用と思われる。

8. 大平仁夫 (1985) 山崎隆弘氏採集の三河地方のコムツキムシ。三河の昆虫, (32) : 170~178.

伊良湖で1975年5月25日に得られた4個体が記録されている。

9. 小島高志 (1988) 知多半島で採集した甲虫 (第五報)。佳香蝶, 40 (155) : 46~47.

知多市で1970年7月18日に得たことを記録。

10. 蟹江 昇 (1988) 篠島・日間賀島で採集した甲虫。佳香蝶, 40 (156) : 2.

篠島で1987年9月11日に1頭採集したことが記されている。

11. 大平仁夫 (1990) 愛知県のコムツキムシ科。愛知の昆虫 (上), 367~382.

渥美町伊良湖 (大平, 1974) ; 渥美町越戸 (大平・浅岡, 1976) ; 額田町本宮山 (大平・浅岡, 1976) ; 岡崎市明大寺町 (大平・浅岡, 1954) ; 碧南市 (大平・浅岡, 1976) ; 知多市 (小島, 1988) の文献記録が紹介されている。

12. 大平仁夫 (1990) 渥美半島の昆虫 (いくつかの要素からなる昆虫相)。日本の生物, (41) : 30~35.

スナサビキコリの図がある。データは付されていない。

13. 浅岡孝知 (1991) 特集・渥美半島の昆虫相。伊良湖, (19) : 1~47.

大平 (1879) と大平 (1990) の記録が紹介されている。

14. 山崎隆弘・浅岡孝知 (1992) 三河湾の昆虫 : 1~468. (自刊)

蟹江 (1988) の篠島の記録が紹介されている。

15. 長谷川道明・蟹江昇 (1992) 豊橋市表浜海岸の海浜性甲虫類。豊橋自然史博研報, (2) : 13~14.

細谷地域で1991年5月26日に1頭採集したことが記録されている。

#### その他について

本種は体色が砂色をしているので、通常の採集では発見しにくいですが、前述のように燈火やトラッ

プによる採集ではよく見出せるようである。本種は海浜性のコメツキムシ類の代表種のように思われており、長谷川・蟹江(1992)の報告でも眞性海岸性種にランクされているが、砂地のある内陸部の河川敷でも採集されているので、実際にはかなり広範囲に分布しているように思われる。しかし、乾燥した砂丘や海岸周辺の砂地帯は、本種の生息環境として適した場所であると云える。砂地に適応した肢の爪周辺の構造は大平(1993)に紹介したが、乾燥に耐える生理的な構造については全くわかっていない。

本文中で示せなかった引用文献は下記のとおり

である。

1) 馬場金太郎(1981)新潟県におけるコメツキムシ科昆虫の分布と季節消長について。越佐昆虫同好会々報, (51):37~48.

2) 大平仁夫(1993)スナサビキコリの砂適応の形態。甲虫ニュース, (103):6.

3) 黒田裕次(1995)ピットフォールトラップによるコメツキムシ類の採集記録。徳島昆虫, (7):23~25.

4) 大塚 勲(1996)熊本県のコメツキムシに関する資料(6)。熊本昆虫同好会報, 41(3):1~6.

## オオムラサキ越冬幼虫の体長についてのメモ

小 鹿 亨

オオムラサキ *Sasakia charonda* Hewitsonの越冬について、伊奈(1996)によれば、「……暖地では5令、寒冷地では4令の形態をとる。」とされ、「……中部地区のものは5令と4令で越冬するものが混生している。」とされている。また、森(1975)によれば、これらの令数の異なる越冬幼虫は、形態的には体長が異なることを指摘している。

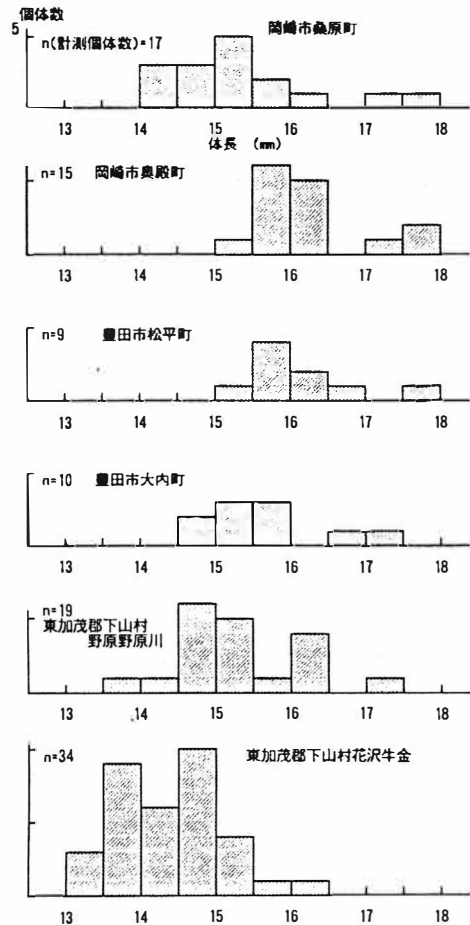
筆者は1995年12月から1996年1月の間、西三河地方において採集した本種の越冬幼虫の体長(角状突起~尾端)の計測をこころみたのでメモとして報告する。なお、計測はノギスを用いた。

産地と計測した越冬幼虫の数は、表のとおりである。すべて、エノキ類の樹下から採集した。

産 地	個体数
岡崎市桑原町	19
岡崎市奥殿町	15
豊田市松平町	9
豊田市大内町	10
東加茂郡下山村野原野原川	19
東加茂郡下山村花沢牛金	34

【表：産地と計測した越冬幼虫の個体数】

各地点の体長の計測値をもとに、その組成をヒストグラムに表した(グラフ)。これらを見るか



【グラフ：オオムラサキ越冬幼虫の体長分布】

ぎり、体長は連続した値をとっている場合が多く、文献にあるような数値（5令が14~16mm、4令が12~14mmとされる）を境界として、越冬幼虫の令段階を判別することは必ずしも容易ではない場合が多い。そのうえサンプル数も少ないが、多少なりとも考察をしてみたい。

グラフの全体的な形状は、大内町・奥殿町・桑原町・松平町では似た形になり、これらの産地のグラフでは、体長14~16mmの間にモードがある。前述の体長と令数の関係をあてはめると、これらの産地ではほとんどが5令越冬となる。

しかしながら、下山村の牛金や野原川で体長14mmを下回る幼虫が発見され、特に牛金は明らかに小さな幼虫を主体とした固体群である。ここでは13.5~14mmと14.5~15mmにモードが見られる。前者が4令、後者が5令越冬幼虫を示しているものと思われ。仮に14mm以下を4令として扱うと、実に35.5%が4令越冬幼虫ということになる。

また、他の5産地では体長14~16mmの山からやや独立して、17mmを越えたあたりに小さな山が出現した。これが単に成長の速い5令越冬幼虫



【計測部】

を示しているものなのか、あるいは本種は飼育条件下では、稀に6令越冬幼虫が出現することが報告されている。これらのヒストグラムの山から、そのまま自然条件下の6令越冬という単純な結論を導き出すわけにはいかないが、当地方のオオムラサキの越冬生態を考えるうえで興味深い。

#### 引用文献

- 伊奈紘 (1996) 設楽町のオオムラサキ, 設楽町誌—自然編—本文編  
 森一彦 (1975) オオムラサキの生態と飼育, グリーンブックス, 15 (ニュー・サイエンス社)

## オサムシの2種の採集記録

小 鹿 亨

### 1 クロナガオサムシ *Leptocarabus proserulus* (Chaudoir)

クロナガオサムシは県内の山間部を中心に記録があるが、筆者は三河平野部の河川敷で本種を採集しているので、記録として報告する。

#### 《データ》豊田市敵部東町天神

13-VIII-1996 1♂

6~21-X-1996 7♂♂ 8♀♀

採集した場所は、岡崎市との境に近い矢作川河川敷の西岸で、竹林やハリエンジュの疎林である。いずれも、プラスチックコップ（誘引物質は食酢）のベイト・トラップに落ちたもの。

### 2 ヤマトオサムシ *Carabus yamato* (Nakane)

#### 《データ》南設楽郡作手村保永

安城市作手高原野外センター

11~15-VI-1996 20ex.

作手村保永の滝付近の林道

24-VIII-1996 1♀

6月の採集場所はスギ・ヒノキの植林地で、筆者の勤務する小学校の5年生のキャンプに引率者として参加した間に、児童とともにしかけたベイト・トラップの中に落ちたものである。8月の記録は、上記キャンプ場の近くにある林道を歩いている個体を捕獲した。

本種の愛知県内の記録は、大平先生が本宮山の西側の額田町雨山で採集された記録が、県内での最も南の記録であるが、今回の採集場所も緯度的にはかなり近いものである。

文献

三河の野性動物(2) : 30~32.

大平仁夫(1993)変わりつつある地域の昆虫相(II)

## ツマグロヒョウモンの記録

小 鹿 亨

1 ツマグロヒョウモンを以下のように記録して 《データ》12-X-1996 1♂  
 いるので報告する。 愛知県岡崎市八ツ木町  
 《データ》29-VII-1996 1♂目撃  
 愛知県愛知郡東郷町愛知県  
 教育センター敷地内

## 愛知県でヤマトケシマガソコガネを採集

城 殿 浩

筆者は、愛知県内では未記録と思われるヤマト 2 ex. " " 高州町 31. III. 1996  
 ケシマガソコガネ *Psammidius japonicus*を得 参考文献  
 たので報告する。 松野更一他(1990)愛知県のコガネムシ類, 愛  
 (調査標本) 知県の昆虫(上) : 339~361 (愛知県)  
 5 ex. 愛知県豊橋市細谷町 20. V. 1995

## ウバタマコメツキのミニ二個体

大 平 仁 夫

ウバタマコメツキ *Cryptalaus berus* (Candèze)  
 は、本州から琉球を経て台湾に分布し、小笠原諸  
 島からも知られている。離島では隠岐島、対馬、  
 五島列島、伊豆諸島にも分布、コメツキムシ類の  
 中では、最も普通種である。

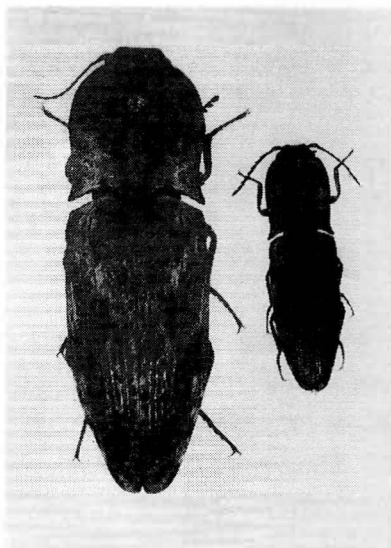
幼虫は松の枯木(比較的新しい朽木)の樹皮下  
 に入り、そこにいるカミキリムシやゾウムシなど  
 の幼虫や蛹を捕食する食肉性である。琉球あたり  
 ではリュウキュウマツに入ると思われる。しかし、  
 この普通種は、三河地方では松枯れのためか、最  
 近ではあまりみかけなくなっていて、いずれ珍種

の中間入りをするのではないかと思っている。

食肉性の昆虫は、幼虫時代の栄養のために成虫  
 の大きさに大小が生じやすいが、ここに示した標  
 本(写真右)は、山崎隆弘氏が豊川市千両町で見  
 出された雄(6.V.1993)で、体長はわずかに16mmし  
 かない。比較のために、渥美半島伊良湖で山崎氏  
 が採集(17.V.1979)された雌(写真左)を示した。  
 これは、体長27mmあって標準的な大きさであ  
 るから、いかに小形であるかがわかる。ウバタマ  
 コメツキでは最大でも体長は30mmくらいまで、私  
 の今までの採集品では体長20mmというのが最小で

あった。この標本は触角や肢、体の各部や交尾器も完全に揃っており、どうしてこのような超ミニの個体が出現したのか大変興味のあることである。この地方でよく見出されるシリプトヒラタコメツキ *Eanoides puerilis* (Candèze, 1873) も体の大きさに変異があるが、この原因についてもまだわかっていない。しかし、ここに示したウバタマコメツキのミニ個体は、これとは別の要因と思われる。

終りに、このミニ標本を提供していただいた三河昆虫研究会の山崎隆弘氏に心から御礼を申し上げます。



## = 三河昆虫研究会の総会 =

1995年度の三河昆虫研究会の総会は、1996年2月25日に岡崎市明大寺町の竜美丘会館で開かれました。参加者は30名(受付名簿による)に上り、現在の会員数は40名少しですので、会員数の約8割の方が出席されたこととなります。このように出席率の高い総会を毎回持てることは、この会が如何に会員相互のきづなが強いかを示しています。

それに代って、会紙などの発行はあまり活発ではありませんが、毎号質の高い報告が行われていて、今ではこの地方の昆虫を調べるには欠かせない会紙になっています。これからは、会紙の内容をさらに充実させたものにして行きたいと思えます。今後ともよろしくご支援をお願いします。

(大平 記)



三河昆虫研究会の総会 (1996年2月25日)